

新 お老~い、したくはできたかい？

みんなで考える「老いじたく」

■ほっと介護のページ、今号からは始める新テーマは「老いじたく」です。算数みたいにきれいな答えは出ないかもしれませんが、考えてみましょう。

こんなニュースをご存じでしたか？「日常生活に悩みや不安を感じる人 初めて七割に」。五〇年以上内閣府が毎年続けてきた調査で、こんな結果が出たそうです（「国民生活に関する世論調査」〇八年）。さらに、その悩みや不安の内容のトップにあがったのは…「老後の生活設計について」でした。

日本の心配「老後」

「悩み」の中味はグラフのとおりです。悩みあり、と答えた四三〇九人にきくと、「老後の生活設計について」をあげた人の割合がいちばん高く、「自分の健康について」、「今後の収入や資産の見通しについて」、「家族の健康について」とつづきました。

また、老後が心配だと考えている層にも、特徴がありました。多いのが地域規模でみると中都市※で、男女別では女性の方が、性・年齢別にみると、男性で五〇歳代、女性では四〇〜六〇歳代の不安がい

ちばん高い、とわかっています。※大都市中核市及び特例市以外の人口10万人以上の都市のこと

何が心配なのか？

平均寿命が男性で七九歳、女性では八六歳、六〇歳で定年退職したとしても、第二の人生はたっぷり。「わたしはまだまだ大丈夫！」なんて口にしてしまっけれど、実は気になっている、という人が多いかもしれませんね。では、老後の何が心配なのか。次のような報告が民間の研究所から出てい

ほっと介護

91

ます。「将来不安や心配に感じる」として、八割もの人が回答した項目が三つ。それは「寝たきりや体の自由がきかなくなること」「大きな病気やけがをすること」「認知症になり、物事の判断がつかなくなること」でした。

そして、いちばん多かった「寝たきり」の心配で、問題に思うことをたずねると、八割以上が「家族や周りの人に不安や迷惑をかけること」だと、答えました。またこれは、結婚している人が答えたかどうかによって、はつきり傾向が違いました。未婚者は「介護に要する経済的負担」と「介護してくれる人がいない」ことを最大の心配にあげています。

なお「自分の死」について不安に思う人は、半数にも満たなかったそう。

共感できる部分はあったでしょうか。年をとって誰かの助けが必要になった時、心配なく長生きできる社会にならないとダメ、と民医連は考えています。でも、上手に生活する「コツ」は知っています。良いのです。

（参考：㈱第一生命経済研究所「老い支度に関するアンケート」）

悩みや不安の内容トップが「老後」
（「悩みや不安を感じている」と答えた人のなかで、複数回答）

